

## 第2回 栃木県立益子芳星高等学校 学校運営協議会 報告

開催日時 令和6年11月22日(金) 14:30~16:30

開催場所 本校会議室

出席委員 大塚 昌哉 佐久間藤也 加藤 義勝 池田 範夫  
宮下 博幸 保坂 一哉 福島 礼司 篠原 泰三  
佐藤 広志 宇都木修一

### 1 開会

### 2 会長挨拶

先日、新聞で益子陶器市のボランティア活動の記事を読んだ。学校をあげて全員で取り組んでいると感じた。また、能登半島地震の義援金を多く集め、益子町に届けたという記事も読んだ。見える部分だけでなく見えない部分でも益子芳星高校の生徒は活躍しているのだと思う。そのような生徒たちのために、今日は役員の皆様の意見をたくさんいただきたい。

### 3 校長挨拶

2年生は今日まで期末テストを実施しており、来週は修学旅行で広島・大阪・神戸に行く。その間1・3年生は期末テストとなる。また、第1回の中学生の進路希望調査の結果、本校希望は71名と昨年の同時期より2名増加していた。まだ定員には足りていない状況にあるが、今後も頑張っていくので、応援をお願いしたい。

本日の協議会では、まず、一日体験学習・インターンシップ事業・進路状況の報告をする。その後、10月の栃木県総合教育会議における発表の報告と併せて、地域連携についての取組を報告する。そのうえで協議では、学校の授業や行事で生かせそうな地域の資源(ヒト・モノ・コト)についてのご意見を戴けるとありがたい。

### 4 出席者紹介

### 5 報告事項

#### (1) 一日体験学習実施状況報告 資料1

- 8月1日(木) 9:30~11:30に実施した。参加者数は、ほぼ昨年同様。

昨年同様、エアコンのある教室で実施した。校長挨拶と生徒会長挨拶はZoom配信、学校概要(単位制や通級についての説明等)および地域連携・協働の取組(総合教育会議で発表の内容のダイジェスト版)の説明は動画を視聴してもらった。6コースの説明は、各コースの代表生徒が各教室に分かれ授業の様子や主な教科の説明をした。

参加生徒のアンケート結果では、ほとんどの中学生が学校について理解できたと回答している。また、自由記述では「部活動に興味を持った」、「益子町のいろいろな活動を知ることができた」、「楽しそうな雰囲気入学したいと思った」などの意見が多かった。また、教員のアンケート結果では「生徒による6つのコース説明が好印象だったのではないか」などの意見もあり、生徒の活躍の場を設定することができて良かった。

- 一日体験へは、高校生活への見通しが立たないという不安軽減のために参加させ

てもらっている。通ってみないと本当の高校生活は分からないが、一日の生活の流れや自分の興味関心にあったコースで何が学べるか等事前に知っておくことで、自分の進路希望とその学校が自分に合っているのかどうかを検討できる良い機会となっている。大変ありがたく感じている。

- 学校概要の説明の中に特色選抜入試・単位制・通級という話があった。中学校の生徒も多様化しており、生活のリズムがつかめない等様々な課題を抱えている。生徒・保護者に対して通級はどう説明したのか教えてほしい。
- 通級は、学校生活を送るうえでの困り感についての相談を生徒・保護者から受けた時に、どのようにしたらよいかなどの改善策を担当者と相談しながら進めていく場であり、学習の補充の場でないと説明した。また、高校生になって上手く高校生活を送れる場合と戸惑ってしまう場合があると思うので、困り感を感じた時はすぐに相談してほしいと説明した。高校入学後には生徒・保護者用のリーフレットを配布することも伝えた。
- 不登校など保護者と生徒が不安に思っている、益子芳星に行けば自分はやれるのではないかと希望が持てる。
- HPの教育相談のページにも通級指導教室「なないろ」についてのリーフレットや教室の写真を掲載しているのでご覧になっていただきたい。
- 中学校の通級とは違い、子供たちを支える相談室というイメージである。

## (2) インターンシップ事業実施状況報告 資料2

- 7月24日(水)～26日(金)に第2学年の5コース(保育コース・デザインコース・食物調理コース・情報スポーツコース、ビジネスコース)の生徒を対象に実施した。

本校では製造業への就職者が多いため、職業マッチングを目的として製造業を勧めている。今年度は、進路指導部長の企業への働きかけにより、新たな体験先として栃木銀行があった。就職につながる体験先を引き続き開拓していきたい。

インターンシップを充実させるために、4月当初から事前指導を行っている。現在、探究学習発表会に向けた準備を進めているところである。事前の生徒アンケートでは、インターンシップに積極的で、社会でのルールやマナー、働くことの意義、会社の雰囲気を知りたいと回答している。しかし、将来の仕事を選択する際、仕事の内容ではなく、企業の知名度を重視する傾向にある。また、経済的な安定や自立を働く目的としている生徒が多い。事後アンケートでは、参加して大変良かった・良かったが100%となっている。社会に出るために、身だしなみの大切さを学んだ生徒が多い。仕事を選ぶ際、会社名を重視する以外に、失業の恐れが少ないという項目の数値が増加した。体験先の事業所アンケートでは、インターンシップは職業選択や職業意識の育成にかなり役に立つ・役に立つが100%であり、前向きな意見を数多くいただくことができた。一方、挨拶や主体的に動けるような指導を事前にしてほしい等の意見も寄せられた。実施時期については、繁忙期と重なり指導するための人員の確保など苦慮しているという企業があったので、実施時期についても検討する必要があると考えている。また、企業との連絡が上手くいかなかった部分もあるので、事業所のご迷惑にならないよう改善していきたい。

進路意識の低い生徒もいるので、1年次からの意識づけが必要だと感じている。今後もコースの特色を生かした事業所選定や将来のミスマッチ解消を意識したインターンシップを実施し、生徒の職業観・勤労観の育成に努めていきたい。

### (3) 進路状況報告 資料3

- 進路状況について合計数をみると、3年連続で就職希望者が進学希望者をやや上回っている状況にある。コロナウイルス感染症が5類に移行後、他校では進学者が増加しているが本校では逆転している。その理由は不明であるため、追跡調査中である。内定率について昨年同様100%を目指して現在指導中である。公務員希望者も増えてきている。進学希望者の中には国立四年制大学に挑戦する生徒がいる。

就職希望者が増加傾向にあるので指導を強化しなければと考えている。就職者のうち9割が製造業なので、インターンシップも製造業を強化していきたいが、ノウハウがない企業もある等、まだまだ手探りの状態でもあるのでご意見をいただきたい。

本校の方針としては、一社一人で幅広く、色々な企業で活躍してほしいが、複数名募集するという企業もあった。

### (4) 総合教育会議における地域連携の取組に関する発表報告 資料4

- 前回（第1回運営協議会）3名の生徒の発表の後、意見をいただいた点を改善して臨んだ。出席者からは、「大学生でもなかなかできない取組をやっている。」「学校で様々なボランティアを行っていて非常に魅力的である。」等、前向きな意見をいただいた。また、各質問に対して、生徒は、人づくり・つながりを意識した回答をすることができた。

今年度の地域連携の取組について、別紙の通り報告した。ましこ未来大学では町民のつどいで「だがしや楽校」を実践する。生徒の活躍の場なのでたくさんの町民に参加してほしい。また、学校祭で地元企業とコラボシマルシェを開催した。秋の陶器市では、デザインコースの生徒がデザインし、無印良品とのワークショップで制作した麻のエコバッグを販売した。

12/23(月)には SHIBUYA QWS にて日体大荏原高校と QWS 会員の企業の方とワークショップを実施する予定である。現在の陶器市をよくするための取組や陶器市以外で益子に来てもらうための取組について検討する予定である。

これまでの活動により、本校の地域連携の取組の認知度は高まり、先日、菊池病院（デイケア施設）から連携できないかという相談があった。他の地区からも連携したいという話も来るので、様々な団体と連携することで生徒の活動の幅が広がると考えている。一方、ボランティアの偏り・継続性といった課題もある。秋の陶器市では延べ120名が希望し、初日の雨による不参加以外は活動してきた。陶器市のボランティア参加希望者は多いが、他のボランティア活動に参加する生徒は少ない。様々なボランティアに参加したり、同じボランティア活動に継続的に参加したりすることで、職業意識や進路意識の向上につなげていきたい。今後、全学年でアンケートを実施し、地域連携活動の課題点を抽出することを検討している。ボランティア活動や地域連携の取組を通して生徒に成功体験をさせるとともに、高校生に「大人のともだち」をつくってもらいたい。益子を愛し益子の人から愛される生徒

を育てることが本校のミッションの一つでもあるので、今後も地域連携活動の改善に取り組んでいきたい。

## 6 協議

### (1) 益子芳星高等学校の魅力化、特色化に関する意見交換

- (協議資料説明) 学校と地域が WIN=WIN の関係になることを目指して、本校の教育活動において地域連携した取組を充実させるにはどんな地域資源・地域人材が考えられるか意見をいただきたい。

現在、第三期県立高等学校再編計画に基づき、商業や地域の特色を生かした科目等の充実を図るため、特例校検討委員会および教育課程検討委員会にて検討を重ねている。令和5年度に授業の一環として実施した地域連携活動は、総合的な探究の時間や家庭科の授業が中心となっている。そこで、もっと幅広い教科で地域と連携・協働した取組ができないか考えている。前回、委員から提案をいただいた料理の為の器づくりも含め、現在行われている授業をもとに実施できそうな取組をまとめた。このような視点で、学校で生かせそうな地域連携の取組や中学校で実施している取組など様々なアイデアをいただきたい。今年度の陶器市ではゴミステーションや授乳テントなどの新たな取組に挑戦した。益子町のニーズとして求められているもので高校生が活躍できる舞台や居場所等、学校を魅力的な場所とするための地域の資源を教えてほしい。

- 授業内容にとらわれず、地域の資源(モノ・ヒト)についてのアイデアがあれば紹介してほしい。例えば、益子にはソウルフードのビルマ汁やそばろパンがあるが、観光客がみんな食べるわけではなく知名度も低い。もっと多くの人に知ってもらうために何か工夫できないか。
- ビルマ汁をおいしく食べるには器のカラーリングも重要である。例えば、とんかつは黒い皿が多いが、濃い色を使うことによってとんかつやキャベツをおいしそうに見せている。おいしさには器も大切なので、それも併せて考えると良いのではないか。スーパーで買ったお刺身なども、陶器に移し替えると同じものでも全然ちがうと感じる。そういう観点から見ると、もの作りも楽しいものになると思う。

全員陶芸もただ体験するだけではなく、益子町の窯元を見学するなどしてもっと深く知ってほしい。そうすることで陶器市ボランティアの際に観光客にプラスワンの案内ができるのではないか。

- 「粘土から知る」「料理をおいしく見せる」といった視点も大切になる。
- 観光案内のボランティアは、生徒が案内することで観光客に好印象を与えることができる。

益子町には7つの重要文化財があるが、地元でも知らない人が多い。益子の歴史を学ぶと興味も広がるのではないだろうか。宇都宮朝綱(ともつな)と鎌倉幕府の関りなど深く知って説明できると良い。重要文化財について学び、県内の多くの人に案内してほしい。

- 学ぶだけでなく伝えることも大切である。歴史探訪マップのようなものができるとうれしい。
- 今回の陶器市で初めてゴミステーションを設置した。ゴミ回収大作戦のようなわ

かりやすい呼び名で、観光客も自分で分別できるような表示を工夫していた。ゴミについての勉強はこれから重要になってくる。環境問題を意識してプラスチックや廃材を再利用し「ゴミのない街」「ゴミを利用している街」といった観点で考えるのもよいのではないか。

災害時の対応も気になる。40年前、大雨による災害があった。小貝川や百目鬼川など豪雨で災害が起こる可能性は否定できない。河川や道路に関して自分たちで考えることも重要なのではないだろうか。

- 防災マップをつくる等が考えられる。
- 自分は小学校が無くなった地域に住んでいるが、子供たちが地域にいる実感が無い。育成会が主催していた行事がなくなっている。そこで、かつての経験者が集まりどんどん焼きの復活を目指している。地域の活性化には核となるものを子供達の発想で実践することが大切である。お祭りを実施するにあたり、お囃子を復活させたが、益子町はお囃子などの団体はあるのか。(あるとの回答を得て) お囃子などを引き継げる学習があっても良いのではないか。
- 鹿島神社で演奏していたのが今はなくなってしまった。
- 以前、小学校にお囃子クラブがあった。
- 益子町は祭りが盛んで色々と続いている。高校生にもっと参加してほしい。益子町の祭りのDVD視聴 (YouTube 配信あり) も良いのではないか。
- 山車を引くのは高校生のスタミナが必要なので、どんどん参加してほしい。
- 以前、ある店からビルマ汁を作るために完熟トマトが欲しいと言われたことがある。完熟トマトでつくったビルマ汁はとてもおいしかった。ビルマ汁は、各店でアレンジして作っている。野菜を育てるところから始めて益子芳星ブランドのビルマ汁を企画してはどうか。
- ビルマ汁は、検査に合格しないとビルマ汁と名乗ることができない。
- 益子の夜市でそばろパンがあるとみんな懐かしくて喜んで購入する。高校生が考えたアイデアレシピが小中学校の給食で広まればソウルフード的なものにつながっていくのではないか。益子はりんご、いちご、ぶどう、梨と色々あるので、何か考えて発信しても良いのではないか。幼稚園では鹿沼の給食調理師が考案したインド煮という料理が広まっている。
- 来年の創立20周年で天人疾風の会の太鼓演奏と体験が予定されている。
- 数年前、日本遺産「かさましこ」で秘蔵文化財を限定公開したときに、案内を高校生が務めた。
- 益子町には世間遺産がある。芳星高校内の古墳もその一つである。益子の小中学校では益子検定を実施している。高校は町外から来ている生徒も多いので、色々なことで町に引き込めると良い。
- 西明寺は笑い閻魔のおかげか参拝者が増えたと聞いている。
- 益子芳星高校の主たる連携先は益子町が中心となるだろうが、連携先に主な就職先である製造業の企業が入ってくると生徒たちの進路意識も高まるのではないか。インターンシップで協力してくれる企業と何かできないか。TVで食べられる土器として土偶のビスケットを見たことがある。違う視点から何か面白いものが生まれる

と良い。

(2) その他

- この意見交換で初めて知り得た情報も多い。外部に行くときに益子町のお土産に迷うことがある。日持ちのする名物など考えられると良い。

7 その他

第3回は1月の2年生のコース別探究学習発表会の見学を予定。

第4回はR7年3月に実施予定。